うま獣医のよもやま話 ⑫　宮越大輔 獣医師

排卵促進（誘発）剤について

静内診療所　宮越　大輔

こんにちは。今回の獣医よもやま話は種付け時に使用する排卵促進（誘発）剤についてです。少し時期はずれになってしまいますが最後までお付き合いください。

排卵促進剤のメリット・デメリット

メリット：排卵時期のコントロール・受胎率向上（海外報告有）
デメリット：費用・（双子増加）

まず、排卵促進（誘発）のメリット・デメリットを確認しましょう。メリットとしては排卵時期を人為的にコントロールできることです、また、海外では排卵促進剤の使用により受胎率が向上するとの報告もあります。デメリットととしては診療費の増加や双子の増加が挙げられます。しかし、排卵促進剤として広く使われているhCG製剤（写真参照）は安価であり、経済的な負担は軽度です（薬代は1回数百円）。さらに、双子についても適切な時期（種付け後16日目以前）に妊娠鑑定および減胎処置（双子の片方をつぶすこと）を行えば早期胚死滅（途中で胎子が消えるリスク）は１つで受胎した場合とほぼ変わらないことが報告されています（2007－2009年の日高での調査結果）。

排卵促進（誘発）剤の投与はいつ行うのか？

排卵促進（誘発）剤の投与のタイミングはいつが良いのでしょうか？

排卵促進（誘発）剤を注射してからどのくらいの時間で排卵するか皆さんはご存知でしょうか？その呼び名からも注射後すぐに排卵してしまうように感じますが、実際は注射から排卵までは以外に時間がかかるものです。たとえば上記のhCG製剤の場合、発情があり発育途中の35mm卵胞（2.3くらいの卵、人によりますが・・・）だと注射から24－48時間後に排卵することが知られています。適切な種付けのタイミングは排卵に近い時期（少なくとも48時間前）であり、かつ排卵前であるといわれています。これらの情報から、hCG製剤の場合、種付けの6－24時間前に投与すべきだと考えております。

また、hCG製剤の場合、複数回の使用で効果が弱くなります。使用はシーズン中で2－3回までの使用が推奨されています。

ホルモン剤の使用に関してあまり良く思われない方もいらっしゃると思います。しかし、排卵促進（誘発）剤の場合、大きな副作用もなく、受胎率の向上も報告されております。このような情報から排卵促進（誘発）剤の使用は効率的な種付けに有用な薬剤だと考えています。排卵促進（誘発）剤は上記hCG製剤以外にも販売されています。担当の獣医師に相談しながら、排卵促進（誘発）剤を使用してみてはいかかでしょうか。

それでは最後までお付き合いありがとうございました。